

国際交流センターだより

国際交流センターからのお知らせ

コロナ禍の影響により、今年度の海外リサーチ・クラークシップや海外からの臨床実習受入は、残念ながら中止になりました。「厳樞学術奨励賞（医学科同窓会による留学助成金）」や「若手研究者国際学会発表助成事業」は、現在募集を停止しています。今後、募集を再開する場合は改めて通知いたします。

昨年度は多くの海外からの臨床実習学生を本学附属病院で受入れることができました。ご指導賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。海外から本学に来られた研究者、学生の皆さんの「奈良医大滞在記」を是非ご覧ください。学内ホームページに掲載しています（学内ホームページ>国際交流センター>VOICE）。

〈2019年度 海外からの臨床実習受入学生実績〉

国名	大学名	臨床実習受入先
ドイツ (8)	・ルール大学 (2)	・腫瘍センター (2) ・消化器外科 (5) ・心臓血管外科 (3) ・産婦人科 (1) ・救急科 (1)
	・ハノーバー医科大学 (2)	
	・レーゲンスブルク大学 (2)	
	・マルティンルター大学 (1)	
	・シャリテ大学 (1)	
ニュージーランド (1)	・オタゴ大学 (1)	

* () 内は受入人数、学生により実習先が複数あり

TOPICS: 海外リサーチ・クラークシップ成果報告

海外リサーチ・クラークシップ参加後に研究活動を継続している本学学生の研究成果が、共著論文として発表されました（未来基礎医学研究室所属）。ご指導を賜りました江浦信之先生（脳神経内科学）、伊藤宗一郎先生（口腔外科学）、岡村建祐先生（整形外科）をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

① Frontiers in Neuroscience

2020; 14: 538, 2020年6月26日 オンライン掲載
Brainstem Organoids From Human Pluripotent Stem Cells
坂口義彦 (医学科6年)、長田理瑚 (医学科5年)、米田朋矢、森川成孝、北吉史佳、鄭美栄 (医学科4年)

② Journal of Biological Chemistry

2020年7月16日 オンライン掲載
Inhibition of the ATR kinase enhances 5-FU sensitivity independently of non-homologous end-joining and homologous recombination repair pathways
坂口義彦 (医学科6年)、北吉史佳 (医学科4年)

③ Scientific Reports

10, 11748 (2020), 2020年7月16日 オンライン掲載
RT-qPCR analyses on the osteogenic differentiation from human iPSCs: An investigation of reference genes 米田朋矢 (医学科4年)

MESSAGE

国際交流センター副センター長
森 英一朗
(未来基礎医学准教授)



本学では、リサーチ・クラークシップで、2016年度から2019年度までの4年間で合計53名の学生を海外の研究施設に選抜・派遣してきました。参加者の多くは、プログラム参加後も学内の研究室に所属し、研究活動に取り組んでおります。海外リサーチ・クラークシップに参加した後も、本学での研究活動に取り組んできた学生達が、今回ご紹介する3報の研究論文に共著者として貢献・活躍しておりますので、ご報告させていただきます。2016年度に1期生として参加したメンバーは、現在6年生となり卒業後の進路について研究者としてのキャリアを視野に入れ思い悩んでいるようです。海外リサーチ・クラークシップを含めた本学の取組みが、少しずつ実を結びつつあるのを大変喜ばしく思います。

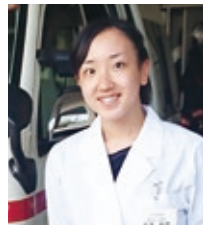
ジャーナルに掲載されて

①医学科4年
森川 成孝



脳幹オルガノイド（多能性幹細胞から作製する脳幹様の細胞塊）作製に関する論文の共著者として掲載していただきました。評価には多くのデータの統合が必要で実験・解析は困難な作業でしたが、その一員として携わらせていただいたことを大変光栄に思います。ご指導いただいた江浦信之先生（筆頭著者・脳神経内科学）や森英一朗先生（未来基礎医学）をはじめとする共著者の先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

②医学科4年
北吉 史佳



私は、伊藤先生（口腔外科学）にご指導賜り、「ATR阻害による5-FUの効果増感の検討」に関わらせていただきました。研究の過程では、失敗も多かったですが、伊藤先生は常にわかりやすく、丁寧に、教えてください、うまくいかないときも優しくご指導くださいました。そのうえ、今回、このような素晴らしい論文に関わらせて頂き、大変有り難く思います。実験に取り組む姿勢はもちろんのこと、本当に人としても非常に尊敬でき、伊藤先生のようになれるよう、自分もこれから、森先生のご指導のもと、未来基礎医学教室で引き続き研究に取り組んでいきたいと思っております。

③医学科4年
米田 朋矢



今回掲載の論文は、ヒト多能性幹細胞(iPS細胞)の骨分化実験におけるReference geneの検討という内容になります。私は、iPS細胞の骨分化実験の確立に携わらせて頂きました。筆頭著者の整形外科教室・岡村先生が骨分化中の各遺伝子の発現量を定量した際にその数値が変動するため、実験方法を再検討した結果、Reference geneの変動に原因があるとし、骨分化実験に適したReference geneの検討を行ったのが本論文となります。この度ご教示頂きました、稲垣先生、岡村先生、始め整形外科教室の皆様、並びに森先生始め未来基礎医学教室の皆様、誠に有り難うございました。